

知的障害者の就職率向上を目指した取り組み

広島障害者職業能力開発校 総合実務科 和田 暁彦

1. 校の紹介

当校は、中国5県、四国4県を対象とした国立県営の障害者職業能力開発校で、さまざまな障害をもつ人を対象に職業訓練を行っています。

訓練科目は、機械技術科、ソフトウェア科、デザイン製版科、インテリア表具科、OA事務科、総合実務科の6科で、定員は130名、訓練期間はそれぞれ1年です(表1)。このうち、知的障害者を対象に訓練を行っているのが定員20名の総合実務科で、平成元年に訓練を始めて今年で12年目になります。また当校は、現在地での校舎建て替え中であり、平成14年度の開校を目指しています(図1)。

2. 総合実務科の訓練内容

総合実務科の訓練内容は、労働省令等で特に定まっていないため、企業の求人ニーズに可能な限り沿った訓練内容としており、現在は「加工組立」「流通サービス」「調理サービス」「環境サービス」の4種目の中から1種目を選択してもらうことにしています。

しかし、この種目の選択は、1年間の訓練とその後の就職を左右する大切な選択であることから、入校後約2ヵ月間は、訓練生の職業適性、作業能力、興味等を把握するために導入訓練を実施し、本人に一番適した種目を見極めて決定しています。その方法は、訓練生全員を4つのグループに分けてそれぞ

れ3日間ずつのローテーションで全種目を体験し、その中から指導員のアドバイスも受けながら1種目を選択するもので、選択後は修了時までその種目の訓練を受けます(図2)。

また訓練生には、これらの選択した種目とは別に、社会性や自立心を身につけてもらうための「生活学

表1 広島障害者職業能力開発校訓練科目

機械技術科	25名	1年	身体障害者
機械加工コース	(10)		
コンピュータ製図コース	(15)		
ソフトウェア科	20	1	
デザイン製版科	20	1	
インテリア表具科	15	1	
OA事務科	30	1	知的障害者
総合実務科	20	1	
定員合計	130		



図1 平成14年度新築校舎完成予想図

習」, 日常生活に困らないための「国語と算数」, 体力づくりのための「体育」, OA機器への順応性を高めるための「パソコンやワープロの基本操作」などの訓練も全員に行っています(表2)。

各訓練種目の内容とその主な就職先は次のとおりです。

- ・「加工組立」では, 木工加工, 金属加工, 機械組立, 電気機器組立を行っており, 主な就職先は木工所や金属加工会社です。図3は訓練風景です。
- ・「流通サービス」では, スーパーマーケットのバックヤードを想定した訓練を行っており, 主な就職先はこれら小売業や倉庫会社です。図4は訓練風景です。

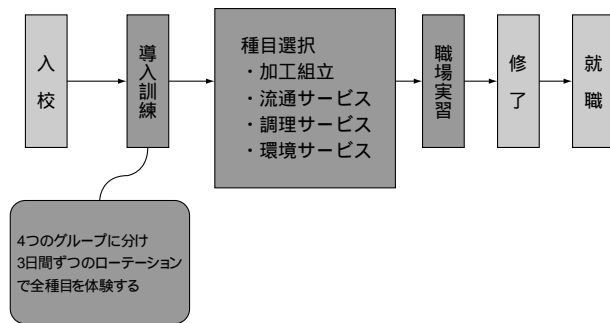


図2 訓練の流れ

表2 総合実務科訓練内容

学科	訓練時間	実技	訓練時間
生活学習	70時間	加工組立	740時間
国語	70	流通サービス	740
算数	70	調理サービス	740
体育	170	環境サービス	740
パソコン学習	125	実技はいずれかの1種目を 選択する	
社会	45		
安全衛生	70		
機械組立法	10		
流通学科	10		
調理技法	10		
清掃技法	10		
合計	660		740
年間訓練時間	1400		

・「調理サービス」では, 調理方法や, お客への応対について訓練を行っており, 主な就職先は食品加工会社, 食堂, 弁当製造会社です。図5は訓練風景です。

・「環境サービス」では, ビル等の床清掃作業の訓練を行っていますが, この種目は, 近年, 求人ニーズが高まっていることに着目して平成12年度に創設した種目です。図6は訓練風景です。

3. 就職状況および就職活動

応募・入校・就職状況の推移をみたのが表3ですが, 応募者数の増加傾向に対して訓練修了者の就職



糸のこ盤による木材加工作業

図3 加工組立の訓練状況



ラップ掛け作業

図4 流通サービスの訓練状況

率は年々低下傾向を示しています。

特に、平成10年度の同就職率が50.0%にまで低下したことから、平成11年度は就職活動に重点を置き、早期に就職活動を行う、企業への職場実習を積極的に行う、就職先が見つければ1年間の訓練をある程度犠牲にしても就職を優先する(表4)などとした結果、表4のとおり、修了者の就職率は減少したものの中途退校就職者の就職率は大幅に増加し、全体の就職率を73.7%へと押し上げました。

しかし、この就職活動にも厳しいものがあります。知的障害者の就職活動は、職業安定所や企業からの求人情報があると、保護者同伴で面接を受け、就労に対するミスマッチを防ぐ観点から1～2週間程度

の職場実習を企業に受諾してもらい、職場実習の結果、本人と企業が納得すれば就職が決定するわけですが、知的障害者に対する理解が乏しいために求人する企業が少なく、やむを得ず過去の採用企業を巡回してお願いしているのが実態です。このため、企業への職場実習も年々難しくなっており、加えて平成14年度からは定員が20名から30名になることから、就職先の確保がますます難しくなることを危惧しています(表5)。

4. 就職率低下の原因

前述した現状を踏まえ、知的障害者を取り巻く就職難の原因を考えてみると、第1には長引く不況の影響があります。広島県の平成11年度平均求人倍率は0.53倍でしたが、このことがさらに知的障害者の職場を奪っている現実があります。

第2には、知的障害者の特性から生じる原因もあります。例えば、知的障害者の多くは自我が強い傾



クッキーの袋詰め

図5 調理サービスの訓練状況



ポリッシャーによる床洗浄

図6 環境サービスの訓練状況

表3 応募・入校・就職状況

(単位:人,%)

年度	H6	H7	H8	H9	H10	H11
定員	20人	20	20	20	20	20
応募	31	39	35	31	37	43
入校	20	22	23	21	24	19
修了者の就職率	85.0%	63.6	47.8	52.3	50.0	36.8
就職退校者の就職率	-	-	-	4.8	4.2	36.9
全体の就職率	85.0	63.6	47.8	57.1	54.2	73.7

表4 平成11年度就職活動方針

早期に就職活動を行う
 企業への職場実習を積極的に行う
 就職先が見つければ1年間の訓練をある程度犠牲にしても就職を優先する

表5 問題点

職場実習先の確保が難しい
 平成14年度から定員が30名に増員される

表6 就職率低下の原因

長引く不況の影響
知的障害者の特性から生じる原因
需要ニーズの変化と訓練内容のミスマッチ

表7 就職率向上のための取り組み

「介護サービス」の種目創設を行う
入寮生の受け入れを増す

平成14年度から
の対応



向にあることから、従業員の訓練生への評価めいた言動があると、これが比較対象者へのイタズラとなって現れることがあります。このため、1企業から2名以上の求人があっても、1名しか就職に向けられない現状があります。

第3の原因としては、需要ニーズの変化と訓練内容にミスマッチが生じることです。以前は製造業からの求人が多かったのですが、最近はサービス業からの求人が増加しており、ビル清掃の求人なども増えています(表6)。

5. 就職率向上のための取り組み

現在、それぞれの訓練によって訓練生が社会に巣立って行けるよう、個人の理解度に合わせたきめ細かな訓練を行っていますが、訓練内容自体が旧態依然としたものでは就職に結びつきません。従来からの求人業種であっても、常に、求められる作業内容等の変化について情報を入手し、訓練にミスマッチが起らないよう心がけながら訓練を実施しています。

次は、訓練種目の創設による就職先拡大への取り組みです。先に、就職率低下は求人倍率の低下による知的障害者の適応職種の減少だと述べました。当校ではこれに対処するため、今年度から「環境サービス」の訓練種目を創設し、清掃業からの求人に対応できる体制をとりました。しかしこの清掃業務は、決められた作業手順に従って仕事をする単純作業の側面と、お客がいる場合にどのような状況下で掃除を一時中断するか判断が求められますが、このような実践的な場面をいかに訓練に取り入れるかに頭を痛めながら訓練を行っています。

また、介護ビジネス産業の将来性に着目し、知的障害者の純真さを生かした「介護サービス」の種目創設も検討を進めています。この訓練内容の考え方としては、特に介護資格の取得は念頭に置かず、食事介助、入浴介助、ベッドメイク等々、身の回りのさまざまなお世話ができる訓練生の育成を考えており、高齢化社会の進展と相まって、今後ますます各方面からの需要が増えるものと確信しています(この訓練種目の創設は、校建て替え後に定員増となる平成14年度を目標年度としています)。

最後は、入寮生の受け入れ増による就職先の拡大です。現在、訓練生のほとんどが広島市や周辺地域からの通校生であることから、就職先を探す場合も通勤範囲内に限られ、これも就職難に拍車をかける一因となっています。この状態のままで平成14年度から定員20名が30名に増加すると、就職難はさらに悪化する危険があります。このため収容人員71名の寮が新築されるのを機会に、通校の難しい地域からの訓練生を受け入れ、地元での就職を念頭に訓練種目も選定するなどの方策をとることによって、さらなる就職率の悪化を防ぎたいと考えています(表7)。

以上が就職率向上への取り組みですが、どれ1つとっても大きな問題が山積しています。しかし、訓練生の社会進出を少しでも成就させるために、今後とも種々の方策を校一丸となって実践していきます。